

## 平成30年2月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,465	8,843	4,509	4,334	6	△ 6
2 千 石	4,021	6,884	3,475	3,409	29	34
3 内 山	5,514	7,729	4,095	3,634	24	34
4 大 和	3,403	6,717	3,332	3,385	4	△ 6
5 上 野	7,239	15,357	7,664	7,693	△ 14	△ 12
6 高 見	7,266	13,455	6,459	6,996	△ 4	△ 2
7 春 岡	6,815	10,895	5,780	5,115	3	△ 5
8 田 代	11,475	21,982	10,629	11,353	23	31
9 東 山	10,339	19,570	9,642	9,928	5	15
10 見 付	4,368	8,238	4,154	4,084	△ 34	△ 47
11 星 ケ 丘	3,547	6,986	3,169	3,817	7	21
12 自 由 ケ 丘	3,550	7,313	3,342	3,971	△ 9	△ 5
13 富 士 見 台	6,465	15,519	7,190	8,329	4	13
14 宮 根	3,841	8,357	3,995	4,362	△ 7	△ 26
15 千 代 田 橋	3,648	8,544	4,013	4,531	7	4
千 種 区 計	86,956	166,389	81,448	84,941	44	43
H29.2.1	85,913	165,511	80,930	84,581	△ 1	18
対 前 年 比	1,043	878	518	360	45	25
名 古 屋 市	1,090,577	2,315,928	1,143,924	1,172,004	274	△ 119
愛 知 県 ( H30.1.1 )	3,158,162	7,530,506	3,767,319	3,763,187	8	△ 1,283

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	98	160	△ 62	855	750	105

【参考】	国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
	昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
	昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
	平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
	平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

## 千種区の性比の状況

今回は、千種区の性比(女性の人口を100とした場合の男性の人口数)の状況を見てみます。

図1：名古屋市全体および各区の性比（各年10月1日）

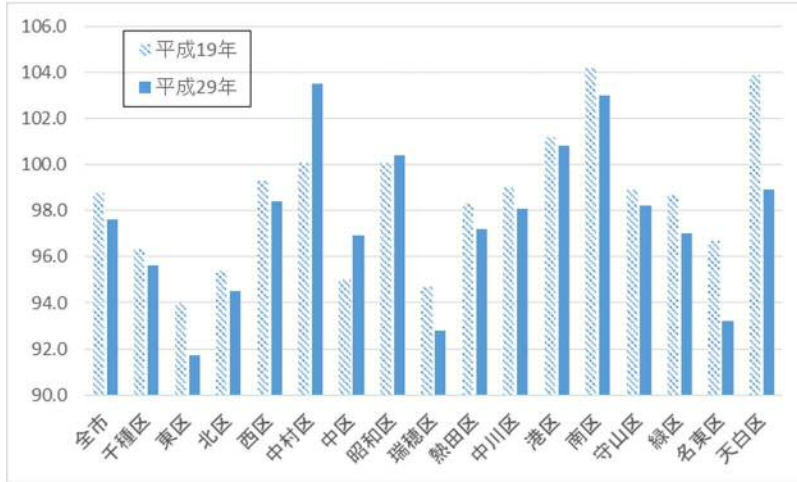


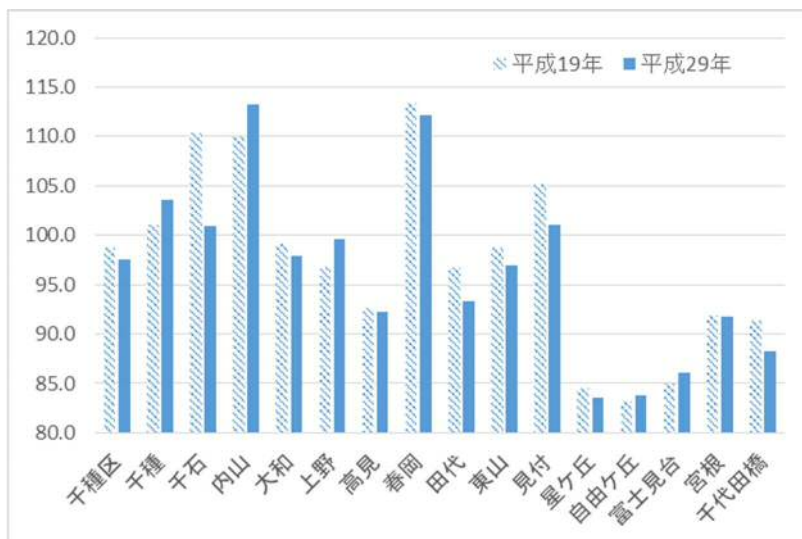
図1は名古屋市全体と各区の性比を示しています。千種区の平成29年10月1日現在の性比は95.6です。これは名古屋市全体(97.6)を下回っており、16区中5番目に低い値となっています。性比が最も高いのは中村区(103.5)、最も低いのは東区(91.7)です。平成19年と比較すると千種区は96.3から0.7下がっており、名古屋市全体でも中村区、中区、昭和区以外の区で下がっています。

図2：年齢5歳階級別の性比（平成29年10月1日）



図2では、名古屋市全体と千種区の年齢5歳階級別の性比を示しています。千種区では20歳~24歳の区分で119.3と高い一方、30歳~49歳では100を下回っています。一方、名古屋市全体では、64歳以下の全ての区分では100を超えていて、59歳以下の区分では105前後の数値となっています。

図3：各学区別の性比（各年10月1日）



次に、千種区内の各学区の性比をみてみます(図3)。平成29年10月1日現在で性比がもっとも高い学区は内山学区(113.2)で、もっとも低い学区は星ヶ丘学区(83.5)でした。また、平成19年10月1日現在でもっとも性比が高い学区は、春岡学区(113.4)、もっとも低い学区は自由ヶ丘学区(83.2)でした。両年を比較すると、10年間で性比が高くなった学区は5学区、低くなった学区は10学区でした。